

1 単元 「ロボットと創る私たちの未来」(作文力向上プログラム)

2 単元の目標

- (1) 友達と協力しながら、間違いを恐れずに表現しようとしている。 (コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- (2) 接続詞や副詞を適切に用いて、順序立てて意見を書いたり、その根拠を説明したりする文章を正確に書くことができる。 (外国語表現の能力)
- (3) スピーチ原稿や日記、電子メールなど様々な種類の文章を読み、その意見の要旨を読み取ることができる。 (外国語理解の能力)
- (4) 接続詞や副詞の意味や使い方を理解している。 (言語や文化についての知識・理解)

3 指導に当たって

本単元は、学習指導要領解説外国語編第2章「外国語科の目標及び内容」に記載されている指導内容(5)書くことア、イ、ウに準拠し、様々な種類の作文課題を扱っている。身の回りの話題について自分の体験を書いたり意見を提案したりする文章や、社会的な話題に関して筋道を立てて意見を述べたりする文章など、中学校で学習したことを総復習するとともに、読み手に伝わりやすい文章を書く力を育成したいと考える。

<英作文に関する実態調査> (実施人数*名 平成*年*月*日実施)

質問内容	人数(人)			
	できる	ややできる	やや苦手	苦手
作文に必要な単語を正しく書く。	*	*	*	*
並べ替え問題を解く。	*	*	*	*
with, on, in, forなどを使って3語程度の言葉のまとまりを書く。	*	*	*	*
SVOの順に、3～5語の文を書く。	*	*	*	*
SVCの順に、3～5語の文を書く。	*	*	*	*
書き始める前に作文の構成を考える。	*	*	*	*
どのような支援があれば作文が書けるようになると思いますか。(複数回答)	人数(人)			
困ったときにすぐに質問できる環境がある。	*			
簡単な単語を使っていろいろな文を書く練習をする。	*			
手元に辞書がある。	*			
友達と相談しながら取り組める。	*			
書いた作文をこまめにチェックしてもらえる。	*			
一人で取り組める。	*			
その他(より多くのALTが来てくれる、単語にふりがながある。)	*			

<ICT機器に関する実態調査> (実施人数*名 平成*年*月*日実施)

質問内容	人数(%)	
	はい	いいえ
自分専用のスマートフォンやタブレット端末を持っている。	*	*
スマートフォンやタブレット端末を家庭学習に活用している。	*	*
自分専用のメールアドレスを持っている。	*	*
ローマ字入力ができる。	*	*
QRコードを読み取り、ウェブページにアクセスできる。	*	*
総和南中のホームページをよく見ている。	*	*
自分の端末からネット接続し、宿題等を提出することは可能だと思う。	*	*

英作文に関する実態調査では、3語程度で書ける基本的な文の構造に理解が十分ではないことから、本学級は英語に対する苦手意識がとて強い生徒が多いことがわかる。生徒は、そもそも単語を書くことへの不安が大きく、英作文で基本となる文型についての理解が低い。単語3つ程度でミスなく簡単に英文が書ける自信がもてない生徒が多く、論理的に作文を書く以前に課題が多い。どのような支援があれば英作文が書けるようになるかという調査では、すぐに質問できる環境を望む生徒が＊割以上おり、友達や先生と確認しながら取り組みたいという意見が目立つ。

I C T機器に関する実態調査より、本学級の全員が、自分専用の端末を所持しているが、それを学習に活用した経験の少ない生徒が多いことがわかった。ローマ字入力に関しても、グループ学習やペア学習には支障がないと思われる。一方で、メールアドレスを持っているにも関わらず、オンラインで課題の提出ができないと感じている生徒が半数以上いることから、メールにファイルを添付して送受信した経験は少なく、データのやり取りにも不安がある。

そこで、英作文に関する指導の前段階として、前置詞を用いて3語程度の語のまとまり(chunk)を書いたり、SVC, SVOで書ける簡単な英文を書いたりするウォーミングアップを帯活動として取り入れ、英語で表現する素地を養っていく。論理的な文章を書くために、学習課題ごとに論理性を提示し、それらが作文中に表れているかをチェックし合う活動を取り入れていく。さらに、書きかけの文章を提示して、どのように加筆すればより良い作文になるか話し合う活動も効果的であると考える。

I C T機器に関しては、全生徒が自分専用の端末を所持していることから、機器の基本操作には問題がないと考えられる。しかし、データを共有する際には、その利便性だけでなく、多くの人の目に触れることへの配慮が必要であることも全体で指導が必要である。また、ファイルに名前を付けて保存したり、画像データをアップロード・ダウンロードしたりすることができることなど、情報機器の仕組みも体験的に指導していきたい。

以上を踏まえ、本単元では、古河市で活用しているロイロノートスクールという学習アプリの機能を使って、生徒が相互に画像等のデータをやり取りしながらアドバイスをし合ったり、インターネット上の資料を参照したりすることで、生徒が学習活動で困ったときに即座に支援できるように環境を整えていきたい。生徒の活動を見守りながら、生徒の書いた英作文を全体で取り上げ、ミスが多くみられる箇所について解説を加えていく。

英語表現の能力向上は一朝一夕で身に付くものではなく、反復練習が不可欠である。3学期の指導では本単元で学習したことを生かし、テーマを変えたものを授業開始10分間で取り組む等の帯活動を実施し、その都度書いたものをふりかえる学習を取り入れていく。また、多様な意見文が書けるようにするために、家庭学習やミニテストを通して学習状況を判定し、個別に添削・返却することで、論理的に文章を書く力を養っていく。

4 指導計画及び評価の観点(6時間扱い) ○が本時

次	時	学習内容	評価規準	観点別評価の項目			
				関	表	理	言
一	1	好きな映画や漫画、物語などを発表するスピーチ原稿を書く。	場面に応じて聞き手を意識した言葉を用いて書くことができる。	○			
	2	休日の出来事について日記を書く。	いつ、だれが、どこで、何を、どうした、なぜ、といったことを、時系列順に書くことができる。			○	
二	3	外国人観光客向けに、日本でおすすめの観光地を紹介するインターネット記事を書く。	複数のおすすめの理由を挙げて紹介することができる。				○
	4	思い出に残っている学校行事について紹介する文章を書く。	順接 and と逆接 but, 結論を述べる so などを適切に用いて、自分の体験を分かりやすく書くことができる。			○	
三	5	課題に対して賛成か反対か述べる。 Junior high school students should go to high school.	課題に対して自分の立場を明確にすることができる。 客観的な理由を挙げて説明することができる。		○		
	⑥	課題に対して賛成か反対か述べる。 Living with robots is necessary.	課題に対して、自分の立場を明確にし、客観的な理由を複数挙げながら、順序立てて分かりやすく書くことができる。		○		

5 本時の指導

(1) 目標

課題に対して、自分の立場を明確にし、客観的な理由を複数挙げながら、順序立てて分かりやすく書くことができる。

(2) 本校の人権教育の視点との関連

ペアワークを通して、本校の人権教育の視点1「お互いに助け合いながら生活することができる」に迫る。

(3) 準備・資料

ワークシート、自己評価カード、スクリーン、プロジェクター、タブレットPC (2人で1台)、スピーカー

☆論理的思考を促す手立て

□ICT活用上の留意点

(4) 展開

	学習活動及び内容	援助・指導の留意点 (◎は評価)	
		T 1	T 2
00	1 あいさつ及びウォーミングアップをする。 ・ミニフレーズを書く。 I agree. I don't agree. I have two reasons. ・書きかけの作文にアドバイスを考える。	・あいさつをする。 □例題や模範解答をスクリーンに提示する。 ☆立場と理由が一致していない文章や、理由が適切ではない文章を提示し、どう改善すればよいのかを問いかける。	・フレーズを発音し、生徒に繰り返すよう伝える。生徒は、読む・聞く・書くことでフレーズについて理解が深まるようにする。
10	2 本時の学習課題を知る。 Living with robots is necessary. という課題文について賛成か反対かを述べよう。	☆どのような記述ができれば良いのかを説明し、求められる論理性を伝える。	
12	3 作文を書く (1) 5分間、自分で取り組む。 I agree. I have two reasons. First, robots can work in dangerous places. ・書いたワークシートを写真に撮る。 ・撮った写真を全ての班に送る。	・机間指導を通して、誰がどのような記述をしているか確認し、共有する。 □間違いが多くみられる箇所をスクリーンに提示し、全体に説明する。	
20	(2) グループごとに作文を読み合い、アドバイスを送り合う。 ・送られてきた画像データに書き込む。 立場や意見、順序を表す言葉 … 青綴りの訂正 … 赤で書きこむ ・参考になった表現を自分のノートに書く。	・机間指導を通して、書き方について助言する。 ・語数が少ない生徒には、汎用性の高いフレーズを紹介する。 ☆意見の内容や記述する順番などは妥当かどうかを生徒に尋ねることで、思考を促す。 ☆論理性が表れているところにマーカーをつけることで、生徒が本時のねらいに迫っている実感もてるようにする。 □ICT機器を使用することで、自分たちが書いたものを複製したり、書き込んだり消したりできるようにする。	
35	4 もう一度、同じ課題で作文に取り組む。 I agree. I have two reasons. First, robots can work in dangerous places instead of people. Second, robots can help elderly people. The number of them is increasing. We need more helpers.	◎課題に対して、自分の立場を明確にし、客観的な理由を複数挙げながら、順序立てて分かりやすく書くことができる。(観察・ワークシート) ・なかなか作文が書けない生徒に対して、書き出しの数語を提示し、その続きを書くように声をかける。	
45	5 本時の学習を振り返り、自己評価する。 賛成/反対を書き、理由を2つ以上書いて意見を説明することができた。	□論理性がよく表れている作文をスクリーンに提示し、称賛する。	・机間指導を行い、生徒へ励ましたりアドバイスをしたりする。
50	6 次時の学習課題を知る。 課題①に再度取り組もう 「自分が好きな映画や漫画、物語などを紹介するスピーチ原稿を書こう」	・単元を通して学習した内容を振り返るために、英作文を書く家庭学習を勧める。	

6 評価の観点及び基準例

レベル	基準例	評価の観点
A	①I agree. I have two reasons. ②③First, robots can help elderly people in many ways. ④I heard the number of them is increasing. ②Second, robots can work in dangerous places instead of people. ④I think it is necessary for us to work safely. (37 words)	①自分の立場が明記されている。 ②理由が複数書かれている。 ③理由の内容が主観的ではない。 ④理由を補足する文が提起されている。
B	①I agree. I have two reasons. ②③First, robots can help elderly people. ②③Second, robots can work in dangerous places. (19 words)	①自分の立場が明記されている。 ②理由が複数書かれている。 ③理由の内容が主観的ではない。 ④理由を補足する文が提起されている。
C	①I agree. I have a reason. ②Robots can work in dangerous places. (12 words)	①自分の立場が明記されている。 ②理由がひとつしか書かれていない。
D	①②I agree. I have two reasons. (6 words)	①自分の立場が明記されている。 ②できる範囲で取り組んでいるが、理由を書くことができていない。
E	何も書かれていない。	